



研究部会報告

●新社会システム●

●第5回

日時：9月25日(水) 10:00~12:00

場所：北海道大学工学部 出席者：17名

テーマ：高度情報化社会が産業界へ与えるインパクト
～事例研究：印刷業，食品製造業，運送業など～

講師：山川博章（北海道商工指導センター）

溝口雅明（北海道ビデオテックスセンター）

ニューメディアの発達が発存産業に革新を迫っている。この講演では、講師が、仕事を通じてとらえた生の産業界の動きを事例を中心として話した。また、ニューメディアであるキャプテンのデモもあった。

●システム最適化●

●第3回

日時：9月21日(土) 13:30~16:00 参加者：21名

場所：大阪大学工学部応用物理学教室4階セミナー室

講演：(1)「帝人におけるシステムの現状について」

甲斐良隆（帝人システムテクノロジー）

(2)「Strong Unimodularity for Matrices and Hypergraphs」 茨木俊秀（豊橋技術科学大学）

内容 (1)は帝人において、いかにシステムアプローチおよび最適化が企業の経営戦略に役立ってきたかを具体的に話された。(2)は整数計画問題を線形緩和して解く時などに役立つ Unimodularity についての最近の成果を茨木氏の研究をメインとして話された。

●DP●（研究グループ）

日時：9月24日(火) 18:00~20:00 場所：日科技連

参加者：3名，蔵野，丸山，小田中

講師とテーマ：蔵野正美(千葉大)，セミマルコフ決定過程と取替モデルへの応用

次のようなシステムの取替え問題を考える。システムの故障はランダムにおこるショックに影響されておこる。つまりシステムが故障する確率は今までにおこったショックによる累積損傷に依存しておこり、取替は瞬間的とする。そのとき最適取替政策は、非増加関数 $a^* = a^*(x)$ が存在して、各状態 x での滞在時間が $a^*(x)$ より大きくなるときのシステムと取り替えることである。

●政策科学●

●第18回(関東・関西合同) 日時：8月25日(日)15:00

～26日(月)10:00 場所：箱根 宮の下保養所 出席

者：18名 テーマと講師：①「ソ連におけるバターと

大砲の問題」福島康人（防衛研究所）

公表されている客観的な報告データを多種類使用してソ連の軍事および経済の現状を分析し、内包する問題点を指摘するとともに、それら相互の関連性について、さまざまな角度から述べた。まとめとして、現行の社会主義システムをドラスティックに変えないかぎり、今後のソ連経済の見通しは良くないと結論づけた。

②「太平洋戦争は勝つことができなかったか」

——システム論からみた第二次大戦——

湊 晋平（武田薬品工業）

数多くの資料を提示しながら戦史の検討を行ない、こういった結果を導いた直接の原因が何であったかを分析した。さらに人事をも含む組織論から見直しを行ない、1つのシナリオを構築することにより、論点や話題を提起し、活発な議論を行なった。

③「意思決定の1つのプロセス」

——ある都市における立候補への決断——

荻野正浩（デジタルコンピューター）

副題の事例をとりあげて話を進めた。意思決定に影響のある要因を洗い出し、それぞれについて、そのインパクトがプラスに作用するのか、マイナスであるのかを整理した。意思決定の決め手となった因果関係を政策科学的に抽出し識別するためには、さらに検討が必要だが、ここでは報告者の価値観にしたがって、大筋を述べた。

●政策科学（関西）●

●第5回

日時：昭和60年9月7日(土) 14:00~16:00

場所：芦屋大学 福山記念館Bホール 出席者：14名

テーマ：「教育事業とコンピューター言語データによる

構造化手法の適用事例一」松崎功保（日本アイ・ビー・エム(株)公共事業営業本部）

内容：教育事業を例にとり、言語データによる構造分析法を提案。そこでは重要な要因をとりあげ、それら相互の影響被影響関係を調べ、複雑性の軸と正味の影響力の軸からなる平面にプロットすることによって全体の構造を明らかにする。このとき新しく人体構造のアナロジーを導入し解釈を与えた点が大きな特徴で、これにより落ちている要因は何かが発見でき、問題意識を高めることができる。